



## 次期学園長に山田明彦氏を再任

### 湘南学園理事会

山田現学園長の任期が、2020年3月末日をもって終了することから、理事会では次期学園長（2020年度から2021年度）の選任を進めてまいりましたが、11月8日開催の臨時理事会において、次期学園長に山田明彦氏の再任を決定致しましたのでご報告致します。

選任にあたり、評議員各位ならびに専任教員の方から候補者の推薦を募りましたが、1名の推薦を頂きました。理事会の場では、学園長候補者より今後の方針や抱負等に関するプレゼンテーションを頂くとともに、質疑応答等により候補者の考え方を理解した上で、山田明彦氏の再任を決定致しました。

湘南学園は、昨年創立85周年を迎え、盛大な式典を開催することが出来ました。今後とも来るべき100周年に向け、山田学園長を中心に様々な課題を乗り越え、建学の精神と培われた伝統を堅持しつつ、更なる発展を目指してまいります。皆様の一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



**学園生の豊かな学びと成長を願って  
未来を拓く湘南学園教育の充実を**

学園長 山田明彦

次期の学園長として再任されました。今期の反省をふまえて重要課題に向き合い、真摯に取り組んでまいります。ひきつづきご教示、ご助言をお願い申し上げます。

### ご入学と通学への感謝

湘南学園の幼稚園・小学校・中学校に在籍する園児・児童・生徒の人数は、現在1950名近くおられます。通学圏はきわめて広範囲に及び、ごきょうだいの通学も少なくありません。数多くの中から本学を選んで下さったことに感謝するばかりです。

「安心できる楽しい学校生活を送り、豊かな学びや体験を重ねて、社会を生きぬく力と意欲を身につけて卒業してほしい」、こうした皆様の切実なお気持ちを受けとめ、教職員と保護者の連携を深めて「一人

ひとりの学園生を大切に、声かけ・寄り添い・励ましに努める」対話と協力を進めていきたいと思えます。

### 社会の動向と 学園生の未来

今後の社会の動きに大きな関心が寄せられています。人口減少と高齢化少子化、情報の氾濫と孤独の広がり、人工知能の普及と職業の再編、自国中心主義と国際協調の後退、といった流れが心配される所です。でも同時に「持続可能な社会の再構築」が人類の課題として深く自覚され、国境を越えた交流や協力がさまざまな分野で進展していることは将来への希望につながる動きであると考えられます。

湘南学園は、改めて建学の精神を深め直し、学園生の学びと成長を第一の優先目的と

して現状を分析し、従来の教育内容や指導体制の見直しも進めるべき時代に入ったものと考えます。厳しい予測にまけない学園生の未来のための教育の充実です。学園時代のチャレンジや手応えと笑顔が、一人ひとりの将来の豊かな人生につながることを祈ります。

「大学入試改革」をめぐる情勢の混迷が広く注目されています。どのように制度が変わっても、学園生の現実をとらえて進学希望に応えられる指導力の向上が求められます。一方「働き方改革」をめぐる制度と運営の改善が要請され、教職員の勤務のあり方も注目を集めています。業務の問題点を協議して改革や整理が必要ですが、学園生の意欲や成長を第一に優先すべき仕事や支援の時間を保証すべきものと考えます。



## 一貫教育で学園生に 育みたい3つの力

建学の精神にもとづく上位の教育目標として「学園生に育みたい力」を、幼小中高を通じて以下のように掲げたいと思います。

- (1) 人を大切にして、つながりを広げられる力
- (2) 自分の考えを深めて、さまざまな機会に表現できる力
- (3) 主体的に行動して、新たな課題にチャレンジできる力

出合いを大切に、多様な立場や文化も尊重して挨拶や対話を心がけること。読解力や思考力を伸ばし、プレゼンの機会も重ねて個性を表現できること。自分の時間を管理できて行動を選び、岐路では勇氣を出して踏み出せること。学園時代にじっくりとチャレンジし、失敗や反省も糧にして自信をつけていってほしいものです。湘南学園は最長で15年間にも及ぶ学び舎です。仲間を広げて人間力を深めてもらいたいです。

## どんな指導の視点が いま大切なのか

各パートで学園生をめぐる現状分析や広範な議論が進んでいます。学園生の積極性や主体性をひきだせる学習課題の提示と取り組みの支援が焦点点でしょう。「持続可能な社会の実現に寄与できる実力ある人間を育てる総合学園」のミッションを深め、「ESD」や「SDGs」と一貫教育の視点に留意して相互理解をはかり、異年齢の学園生どうしの交流も重点的にサポートしていきたいです。「主体的・対話的で深い学び」は全学一貫の目標であり、「聞く」「話す」「読む」「書く」の力や「考える力」「感じる力」の育成を重視したいと願うものです。

子ども達をめぐる環境を考慮すると、細かなルールで管理統制せず、発達段階と事実に沿って自主性・判断力を育てる対話的指導を充実させ、全学で自治の力を育てることが大切ではないかと考えます。ネット時代のメディアリテラシー育成も全学的な課題であり、子どもに甚大な影響を広げるスマホなど情報機器に関する指導については、保護者

との情報共有や啓蒙連携も大切であると思われれます。小学校の英語教育必修化もふまえて、総合学園を生かしたた英語教育とグローバル教育の発展をはかることも重要です。食育・防災・被災地支援・国際交流などをテーマに学園生が社会に目を向け、地域住民の方々や社会に生きる大人とも積極的に交流して視野を広げる学びを更に支援していきたいです。

## 安心して通える学園 預けられる学園 働いていける学園

学園生の皆さんが安心して通学できる環境をめざし、関係者それぞれの支援と一層の連携強化が重要です。不登校や保健室登校への重層的なサポート。いじめなど問題行動への迅速な対応と特別指導。保護者の方々が安心して利用できる全学的な教育相談体制の充実など、今後も切実な重点課題です。また各パート・全学の「見える化」に寄与する学内向け広報の充実も新たな課題として指摘されます。ハラスメントは、学園生・教職員・保護者にまたがる重

要な問題です。職場環境の改善をはかり、継続的な研修や体制の整備を行います。追加を重ねてきた諸業務の削減や移管やフォロワーなど職場環境の改善を進める必要もあります。未来を担う次世代教職員の提言は注目です。「全学教育研究集会」で今後の基本課題を再考する研修テーマを掲げ、パートを越えた座談会での意見交換を提唱したのもその一例です。また保護者の価値観や規範意識も多様化する中で、次の時代の担い手である子どもをどう育てるかに徹した教員と親の対話や学び合いを学園らしく発展させたいものです。

## 持続可能な学園教育 の未来へ向けて

湘南学園は、独自の建学精神とシステムのもとで、教職員と保護者の連携で手づくりの教育と運営を進めてきた幼小中高の男女一貫校です。独自の共同体が築かれ、幾度も危機を乗り越えてきました。明るく活気ある学園の風土は誰もが共有できる宝であり、素晴らしい立地にも恵まれ、未来への教育の使命を実現で

きる土台があります。昨年度の創立85周年の節目と取り組みを経て、永続的な存続と発展を支える基盤づくりの一環で先日「松ぼっくり基金」を創設しました。卒業生の皆様に、現役学園生の成長のために寄与していただく教育機会も広がっています。現在の私学をめぐる情勢は厳しく、構造的な募集危機と財政危機があります。現場と法人の総力を結集して幼・小・中高の募集を守り、創立100年へ向けての長期構想も練りながら教育の充実を図ってまいります。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

